

～夏風邪が流行っています～

代表的なのは、アデノウイルス感染症（プール熱）、手足口病、ヘルパンギーナですが、それ以外にも熱の高い夏風邪が何種類もあります。いずれもウイルス感染なので特効薬はなく、通常は対症療法のみです。



合併症としては、髄膜炎・脳炎・心筋炎などがあります。顔色が悪い、ぐったりして意識がはっきりしないなどあれば救急受診しましょう。また夏風邪ウイルスは熱性痙攣を起こすこともあります。

*発熱についての詳しい対応は、「グレイス病院小児科外来通信 NO.4：発熱のお話」をご参照ください。

◎アデノウイルス感染症

アデノウイルスとは、風邪（上気道炎）、胃腸炎、結膜炎、膀胱炎などを起こすウイルスです。50種類以上の型があるため、免疫がつきにくく、何回もかかることがあります。



高い熱、赤い目、のどが痛い

*プール熱（咽頭結膜熱）

アデノウイルスで最も典型的な症状は扁桃炎です。扁桃腺に白い膿のようなものがついて、高い熱がでます。結膜炎を合併することもあります。のどを綿棒でぬぐう検査で確定ができます。

発熱期間は長く（2-10日間、平均5日間）、嘔吐や下痢の胃腸炎症状、目の充血や目やになどの結膜炎の症状が主です。

高熱でつらそうなら解熱剤を使ったりして、脱水にならないようにこまめに水分補給しながら、免疫力で回復するのを待ちます。

アデノウイルスは感染力が大変強いです。咳や鼻汁の飛沫感染や便から感染することがあります。頻回の手洗い、下痢の子のオムツ替えは手袋を使う、などして予防しましょう。年間通してみられます。潜伏期は3-10日間くらいです。保育園・学校などの登園・登校基準は解熱してから2日経過するまでは停止と決まっています。しっかり休養をとること、周りにもうつさないことが大切ですね。

★解熱後2日の例						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	発熱（診断）	解熱	解熱後1日目	解熱後2日目	出席可能	

◎手足口病

名前の通りに手や足（お尻やからだにもできることがあります）に発疹ができて

（子どもの発疹は痛くありません）、口の中やのどにも口内炎（痛いです）ができる病気です。

熱がでないか1-2日目に熱が出て解熱してから発疹ができて初めて手足口病とわかることもあります。

症状は通常は比較的軽く数日で回復しますが、口内炎がひどく食事や水分がとりにくくなるときは、

熱いもの・塩味・酸味の強いもの・固いものは控えて、ゼリーやアイスクリームなどがよいでしょう。

ミルクなど水分補給を十分にしてお水にならないようにしましょう。

熱がなく元気であれば登園・登校は可能です。



◎ヘルパンギーナ

突然高熱が出て、のどが痛くなります。のどの奥に小さな水疱ができ、少しすると破れて口内炎のような白い潰瘍になります。熱は2-4日で下がりますが、のどの痛みは5-7日ほど続きます。

のどが痛い間は、柔らかいもの、しみないものを与えましょう。プリン、ゼリー、アイスクリーム、

ミルク、冷めたおじや、お豆腐などがよいでしょう。十分に水分をとるようにしましょう。

熱が下がって食欲が戻り元気なら登園・登校は可能です。

